

「気管支喘息患者における身体活動性の調査-多施設共同研究-」に同意いただいた皆様へ
当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方
にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	気管支喘息患者における身体活動性の調査 ー多施設共同研究ー		
② 実施予定期間	2019 年 2 月 20 日 から 2026 年 12 月 31 日		
③ 対象患者	本研究(H2019-020)について既に文書にて同意済の研究対象者の皆様		
④ 対象期間	2019 年 2 月 20 日から 2020 年 12 月 28 日		
⑤ 研究機関の名称	別添参照。		
⑥ 対象診療科	呼吸器・感染症内科		
⑦ 研究責任者	氏名	松永 和人	所属 呼吸器・感染症内科
⑧ 使用する試料・情報等	情報：年齢、性別、身長、体重、喫煙歴、家族構成、同居家族の有無、職業、ペット（種類）、過去 1 年の増悪歴*、併存症、処方歴 問診票結果（IPAQ-short、mMRC、ACQ、mini-AQLQ、HADs、基本チェックリスト、息切れ質問票）、6 分間歩行試験 呼吸機能検査、CT 画像データ、骨密度検査、活動量計データ 試料：保存血清		
⑨ 研究の概要	身体活動性の低下は生活習慣病、悪性疾患、抑うつ症状のリスク因子であり予後不良因子であることが知られています。その機序として、身体活動性低下が筋肉由来の生理活性物質（マイオカイン）の分泌量を変化させて全身に影響を及ぼすことが示されています。気管支喘息は慢性気道炎症により咳嗽、息切れ、喘鳴などの症状が長期に渡って認められる疾患であり、喘息患者さんにおいても身体活動性の低下が認められることが近年になって認識されつつあります。身体活動性向上の重要性については海外の喘息ガイドライン（GINA: Global Initiative for Asthma）にも記載されています。しかしながら、喘息患者さんにおける身体活動性に関するエビデンスは限られており、特に本邦からの報告はほぼ皆無であり多くの未解明の点が存在します今後さらに、喘息患者さんの身体活動性に関する多面的なリスク因子、バイオマーカーや、将来の喘息イベントとの関連を検討したいと考えています。本研究については、すでに同意いただいた皆様が研究対象者ですが、同意いただいた後、計画が一部変更されました。研究内容の大きな変更ではございませんが、共同研究機関(京都大学・北海道大学)の追加、測定項目の追加（保存血清を用いた全身炎症性マーカーやエクソソーム[細胞が産生、放出する膜に包まれたカプセル状の物質]の測定、CT 画像解析[血管、気道、心外膜脂肪組織]等）がありましたので、本文書にて変		

	更した情報を公開させていただきました。 解析を実施する際の共同研究機関間における血清や情報の授受は、個人が特定できないように個人情報加工した状態で代わりに研究用の番号をつけ、どなたのものかわからないように加工した上で行います。			
⑩ 実施許可	実施許可日	2025 年 4 月 9 日		
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。 詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。			
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。			
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。			
⑭ 知的財産権	大学・研究者に帰属します。			
⑮ 研究の資金源	当院では奨学寄付金を資金とします。			
⑯ 利益相反	ありません。			
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	山口大学医学部附属病院 呼吸器・感染症内科 担当者：深津 愛祐美			
	電話	0836-22-2111	FAX	

別添

研究組織

研究代表者：

広島大学大学院医系科学研究科分子内化学 教授 服部 登

研究参加施設と研究責任者

山口大学医学部附属病院	松永 和人
高知大学医学部附属病院	横山 彰仁
島根大学医学部附属病院	磯部 威
国立病院機構山口宇部医療センター	亀井 治人
国立病院機構浜田医療センター	柳川 崇
すたに呼吸器内科クリニック	須谷 顕尚
広島原爆傷害対策協議会	平野 千尋
呉共済病院 忠海分院	近藤 圭一
日比野病院	小林 益樹
京都大学医学部附属病院	田辺 直也
北海道大学医学部附属病院	清水 薫子